

社長メッセージ

Top Message

「100年に一度」の大変革期を乗り越え、持続的成長を果たすため、技術力を更に高めて「ジーテクトブランド」を磨き上げます。



代表取締役社長
高尾 直宏

○ 統合報告書を初めてお届けするにあたり

当社初の発行となる統合報告書をお届けします。株主・投資家の皆様をはじめ、お得意先や社員など、すべてのステークホルダーの方々に、当社の価値創造に関するご理解を財務・非財務の両面から深めていただくとともに、中長期的な企業価値の向上を目指し、皆様との対話をより深めていきたい、との思いで本書を作成しました。

○ 2019年3月期の振り返りと2020年Vision「G4-20」の進捗

2016年4月より、中期経営目標として2020年Vision「G4-20」(ジーフォートゥエンティ)を掲げ、連結売上高3,000億円・連結営業利益200億円の達成を目指しています。その中間点となった2019年3月期の連結業績は、日本・中国・アジアでの増産や新機種の型設備・試作の売上などが寄与し、売上高2,556億37百万円(前期比16.3%増)、営業利益168億13百万円(同17.8%増)、経常利益174億23百万円(同19.3%増)と、いずれも過去最高を更新しました。

「G4-20」では、技術・販売・人事の各分野で「イノベーション」を推進中です。まず、技術イノベーションでは、ウルトラハイテン材のプレス加工技術、ホットスタンプ加工技術、車体性能解析技術などの進化に取り組んだほか、2018年4月には東京都羽村市に、次世代の軽量で高剛性な車体を生み出す研究開発拠点として「ジーテクト東京ラボ(G-TEKT TOKYO LAB:GTL)」を開設しました。最新車種のバーチャルデータを用いたシミュレーション解析技術などを駆使し、当社にとって永遠のテーマである「より軽く、より強い」車体の開発を加速しています。

販売イノベーションでは、欧州大陸初の生産拠点として、スロバキア・ニトラ市に建設中だったG-TEKT Slovakia, s.r.o.(G-TES)の新工場が2019年4月に完成しました。アルミ車体部品的高速連続加工技術と接合技術などを導入し、すでにジャガー・ランドローバー様やBMW様向けの新規受注を獲得しています。これは、当社の技術力が、車づくりで長い歴史を誇る欧州で認められた証拠です。この「ジーテクトブランド」を更に磨き上げ、様々なカーメーカーとの取引を拡大していきます。

人事イノベーションでは、人材育成手法としてHCM

(Human Capital Management)に基づいた階層別研修や選抜研修を導入するとともに、多様性の拡充にも取り組みました。2019年4月に5名の女性管理職を登用したほか、6月には当社初となる女性社外取締役を招聘するなど、引き続き、新たな価値を生む人財の創出に努めています。

○ 大変革期を乗り越え、持続的成長を目指す

近年、地球温暖化に伴う気候変動により、世界各地で甚大な被害が出ています。車が排出するCO₂も温暖化の一因といわれ、車体の軽量化による燃費向上は、CO₂削減につながる重要課題として、自動車産業全体で早急に取り組

まなければなりません。そればかりか、「CASE(ケース)」*と呼ばれる大きな動きも加わり、産業構造が急激に変わる100年に一度の大変革期を迎えています。この激動する環境を乗り越え、持続的成長を果たすべく推進中の取り組みについてご説明いたします。

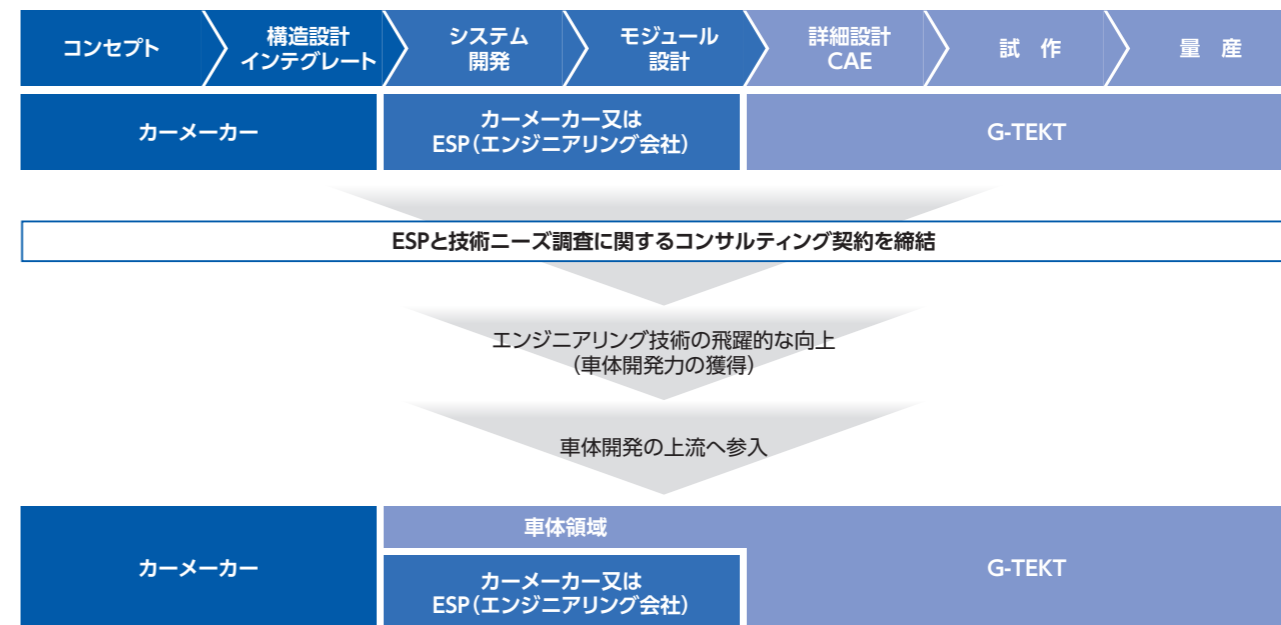
*CASE:将来の自動車産業の動向を示すキーワードであり、Connected(つながる)、Autonomous(自動運転)、Shared(共同所有)、Electric(電動化)の頭文字から成る。2016年10月に開催されたパリ・モーターショーで、ダイムラーCEOのディーター・ツェッチェ氏が唱えた。

○ 車体開発力の強化

激変する経営環境の中で当社が果たすべき使命は、コーポレート・スローガンに掲げた「人とクルマと地球の未来の

■ 車体開発力の強化

次世代の軽量で高剛性な車体の開発力を強化し、開発から量産までを担う車体専門メーカーを目指す



社長メッセージ

Top Message

姿を形づくる」ことだと考えます。それを実現するうえで最も重要なものの一つが、革新的な「技術力」です。単に部品をつくるだけでなく、部分最適から全体最適となる軽量で高剛性な車体を提案できるのが当社の強みです。

この技術力を武器に、車体開発領域の上流から参入できれば、カーメーカーの車体開発パートナーとして多大な貢献ができます。車の開発は、コンセプト立案から量産まで多くのプロセスを経ていきます。一般的にカーメーカーは、コンセプトからモジュール設計までを行い、それ以降のプロセスはサプライヤーが受け持ちます。特に欧州系カーメーカーでは、このプロセスにおけるシステム開発やモジュール設計を外部のESP(Engineering Service Provider)に委託する分業スタイルが多く見受けられます。

当社では、豊富な開発実績を持つESPとコンサルティング契約を結び、欧州系カーメーカーの技術ニーズ調査を実施中です。今後は長期成長戦略として、ESPのエンジニアリング技術を活用し車体開発力を身に付けていきます。これにより車体開発の上流工程に参入すれば、次世代の軽量で高剛性な車体の具現化にもつながります。軽くて環境性能がよく、安全な車体づくりこそが、当社の存在意義なのです。

○ 「2030年ビジョン」

もう一つの取り組みとして「2030年ビジョン」プロジェクトを立ち上げ、10年後の「ジーテクトのありたき姿」を構築中です。

当社が発足した当時の2012年3月期と2019年3月期を比較すると、連結売上高は1.9倍、連結営業利益は1.7倍となり、着実な成長を遂げています。これを踏まえながら持続的成長を実現していくため、企業体質の一層の向上を図る要素として「2030年ビジョン」では、「人財」「技術革新」「構造変革」「社会貢献」の4つの要素を設定し、それらに基づくステートメントとして「情熱と革新を融合させ、人とクルマのより良い未来をかたちづくる」を掲げました。

当社の成長は「人財」があってこそ。一人ひとりが持つ個性を最大限に活かし、社員それぞれの多様性を尊重した経営が重要です。また「技術革新」では、車体専門メーカーとして開発から量産までを担い、カーメーカーをリードする存在を目指します。そして「人財」と「技術革新」を活かすには、組織や企業体質を変えていく「構造変革」が必要です。更に「社会貢献」では、ESGの観点から「ジーテクトの社会的責任」を果たすことが大切です。これら4要素を基に、企業体質の向上に取り組んでいきます。

○ 多様な視点で迅速に意思決定するガバナンス

激動する環境変化の中では、ガバナンスにおいても迅速で幅広い観点からの意思決定が求められます。このため、2019年6月の株主総会を経て、人数のスリム化と多様化の観点から取締役会の構成を見直し、実効性の向上を図っています。

スリム化では、独立社外取締役の比率を3分の1以上とする基本方針に沿い、取締役を9名から5名に減らし、5名のうち2名を社外取締役としました。更に多様化では、新たな視点を取り入れるべく、当社初となる女性取締役(社外取締役)を招聘しました。これにより「外部の新しい風」を取り入れ、「開かれた取締役会」としての機能を存分に発揮していきます。

○ ステークホルダーの皆様へ

当社では利益成長を反映した安定的・継続的な株主還元を基本方針に、増配の維持を優先課題としています。これに基づき2019年3月期は、期末配当として1株当たり24円(前期比4円増配)、中間配当と合わせた年間配当は46円

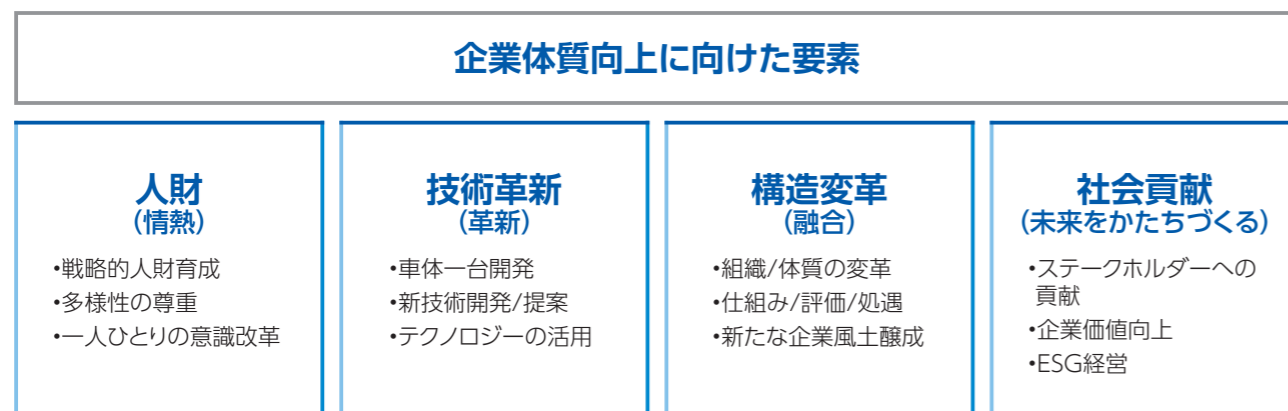
(同7円増配)とさせていただきます。2020年3月期は、10期連続の増配となる、年間48円の配当を予定しております。

世界情勢は不安要素が多く、厳しい経営環境が続くと予想しています。しかしながら、経営を預かる者として、いかなる環境であっても、企業としての「質」を高めながら、規模の拡大、つまり「量」的な成長を着実に続けていく決意です。

常に時代の先を読む革新的な成長戦略の下、スピード感を持って力強く舵取りを行ってまいりますので、ステークホルダーの皆様には、変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

■ 2030年ビジョン

4つの要素を誰もが共感できる形で言葉にしたのが2030年ビジョンのステートメント



「2030年ビジョン」ステートメント

情熱と革新を融合させ、
人とクルマのより良い未来を
かたちづくる

